資料８－１

第５次岬町総合計画　「まちづくりの目標」の設定

住民意識調査（一部抜粋）	団体アンケート（一部抜粋）	まちづくりワークショップ『理想とするまちの将来像』	社会的潮流	統計データ	第４次総合計画の総括	（1）分野別課題
・「子育て支援の充実」について満足度は28.6%、重要度は76.2%となっている。 ・「学校教育の充実」は満足度が27.8%、重要度が77.0%	・理想のまちで「子育てや教育に熱心な”まち”」と回答した割合は37.9%となっている。	・安心して子育てできるまち ・子どもがのびのび育つまち ・子どもがのびのびと学べるまち ・出生率が高いまち ・子育てしやすいまち	⑶ライフスタイルや価値観の多様化	・0～14歳の人口はH22年からの５年間で約400人減り、1,567人（H27） ・合計特殊出生率は大阪府平均より小さく、1.06（H20～	・安心して子育てができるよう地域ぐるみの子育て支援の活性化や支援内容の充実が必要である。	①少子化や若年層の流出に向けた対応
・住みよいまちではない理由に「医療機関が充実していない」の回答が65.2% ・満足度が低く重要度が高い施策は「地域保健・医療の推	・理想のまちで「福祉と医療の充実した”まち”」と回答した割合は51.7%となっている。	・安心して医療や介護にアクセスできるまち ・どんな身体になっても自分らしい生活ができるまち ・年齢層に関係なく楽しめるま	⑷人と人とのつながりを大切にする社会 ⑸社会経済情勢の変化	・高齢化率は36.4%（H27）で、単独世帯も増加 ・要介護認定者数は5,949人（H28）で増加傾向	・住み慣れた地域で安全に安心して生活できるよう福祉や医療の充実に向けた施策展開が必要である。	②人生100年時代への対応
・町の取り組みで32.6%が「産業を振興し、安定した雇用を創出する取り組み」を重要視 ・「観光・レクリエーション」のの重要度は69.4%	・産業に関しての自由意見が８件と、多くなっている。	・南海沿線の若者が集まるまち ・観光客で賑わいのあるまち ・活気がありずっと滞在したいまち ・美味しい食べをたべることができるまち	⑴人口減少社会と地方創生への対応	・就業者数は6,543人（H27）で減少傾向にある。 ・観光入込客数は1,738千人（H30）で、せんなん里海公園が最も多い。	・雇用創出に向け、更なる企業誘致の推進や観光振興による地域活性化に取り組む必要がある。	③雇用や地域活性化への対応
・「消防・救急体制の充実」、「防災対策の推進」は重要度と満足度が高い施策 ・「安全で安心して地域で暮らせる地域づくりの取り組み」を重要視	・理想のまちで「災害・犯罪のない安全・安心な”まち”」と回答した割合は34.5%となっている。	・自然がたくさんあるまち ・釣りが楽しめるきれいな海 ・災害が少なく安心して住めるまち ・事故や犯罪の少ないまち	⑵安全・安心がより重視される時代 ⑸社会経済情勢の変化	・交通事故、火災発生件数と犯罪認知件数は減少傾向にある ・昭和55年以前の旧耐震基準で建てられた建物が49.0%（H25）	・防災・減災の推進など安全・安心に暮らせる施策展開や、地域資源である自然環境の保全に取り組む必要がある。	④安全・安心な地域社会への対応
・住みよいまちではない理由に、「交通の便が悪い」78.7%、「都市基盤が整備されていない」の回答が65.2%	—	・バリアフリー整備が整った駅があるまち ・車椅子の人でも普通に過ごせるまち ・みさき公園駅前の再開発	⑴人口減少社会と地方創生への対応	・みさき公園駅、多奈川駅の利用者、文化センター、青少年センターの利用者数は減少傾向にある。 ・空き家率は17.9%（H30）で微減傾向。	・住みよいまちをめざし、利便性の高い公共交通施策の展開や都市基盤整備が必要である。	⑤都市基盤の整備と維持への対応
						（2）まちづくり全体に係る課題
・まちの人口減少・少子高齢化に対しては、「人口を増やすようにするべき」（46.5%）が最も多い。また、75.6%が不安を案じている。	—	・岬町に住みたいと町外の人から思われるまち ・ずっと住み続けたいと思われるまち	⑷人と人とのつながりを大切にする社会	・社会増減数は△129人、20～39歳の転出超過数は△108人（ともにH30） ・タウンプロモーションの特設サイトのアクセス数は増加傾向	・移住・定住の促進や関係人口の創出など人口減少を踏まえた施策展開が必要である。	①誰もが住みやすい環境づくりへの対応
・75.6%の住民がまちづくりへ関心を持っており、「住民主体のまちづくりの推進」を重要視（67.1%）している。 ・自治区活動への参加に強い関心	・役場や住民との協働の取り組みについてニーズが高い。34.5%が活動をいっそう拡充していく意向がある。	・近隣の方と仲の良いまち ・人が動き行政が支えるまち ・「まつり」で人がつながるまち ・多世代が繋がっているまち ・小さな町の小さなコミュニティをいかす	⑷人と人とのつながりを大切にする社会	・自治区加入率は82.1%（R1）で減少傾向にある。 ・岬ゆめみらいサポート事業数は49件（H30）で増加傾向にある。	・自治会など地域コミュニティを維持する取り組みや行政と地域の共助によるまちづくりに向けた施策展開が必要	②コミュニティの活性化と協働のまちづくりへの対応
・行財政への自由意見が32件あり、多くなっている。 ・「行財政改革の推進」は満足度が15.6%、重要度が67.7%	—	—	⑹情報化の進展と生活の変化	・広域連携事業数は25事業（R1） ・地方債現在高と積立金現在高は、近年ほぼ横ばい ・実質公債費比率と将来負担比率はH23をピークに減少傾向	・効率的な行政運営と財政の健全化に取り組む必要がある。	③行政の効率化と財政の健全化への対応

まちづくりの目標

①豊かな自然の中で安心して暮らせるまち
（生活環境・防災）

②誰もが健やかにいききと暮らせるまち
（健康・福祉・子育て）

③あらゆる世代の人が豊かな心をはぐくむまち
（教育・文化）

④新たな活力と魅力があふれるまち
（産業・観光）

⑤安全で快適な住み心地のいいまち
（都市基盤）

⑥すべての人が輝きまちづくりを進めるまち
（協働・人権・行政）